

原水爆禁止2005年国民平和大会行進

奈木野佳代さん 全国通し行進へ

東京-広島コース
91日間!

被爆60年の原水爆禁止世界大会をめざして行なわれる、国民平和大会行進の東京-広島コースに、奈木野佳代さんが通し行進者として参加することになりました！奈木野さんは同じコースを1993年にも通し行進者として歩き通しており、今回2回目の挑戦です。奈木野さんは現在水島平和委員会の事務局長として中心的な活動を続けており、地域ではもちろんのこと岡山県の反核・平和運動でも大きな役割を果たしています。



今回の決意には全国からも大きな期待が寄せられています。奈木野さんの決意をしっかり受けとめ、核兵器の廃絶を願う私たち一人ひとりの平和への思いを奈木野さんに託し、送り出していくとともに、私たちも「被爆60年を行動の1年に」していきましょう!!

奈木野さんの通し行進決意

全国に平和への熱い思いとさわやかな風を吹かせた12年前の通し行進(若いっ!!)
-1993年国民平和大会行進より-

昨年の原水爆禁止世界大会の会場で訴えられた「被爆60年を行動の1年に」という提起を、全身で受け止め、これまで自分が進んできた平和活動を振り返り、今後の方向を見出すために、自分の平和活動の原点である平和行進にたちかえろうと決意しました。

私の平和活動の始まりは平和行進でした。幼少の頃から母に連れられ平和行進に参加し、平和活動は私の生活の一部であり自然なことになっています。12年前1993年に渡辺千恵子さんの遺影を持たせていただき、東京-広島コースを歩きました。その時、私は「青年」という年代でしたが、今は青年を支える年代になりました。もう一度通し行進をする事で、新しい状況の中で青年や青年を支える世代に何が必要なのか、どのような導きが必要なのかを学び、地元に戻したいと考えています。

被爆60年、戦争体験者や被爆者は高齢化し年々減少してきており、戦争・被爆体験を継承していく者が必要となっています。同時にこの活動を支えてきた先輩方々も高齢化が進んできていますが、その意志を引き継ぐのが私の役目だと思っています。私は医療従事者という立場から、命の尊さを訴えていく義務があり、この60年、被爆者の方々がどのような思いで過ごされてきたか広く知らせていかなければならないと考えています。

広島・長崎の悲劇から60年たった今でも核兵器はなくなっていません。私たちの未来に、子どもや青年、すべての人間の将来に核兵器は必要ありません。核兵器から平和や幸せは生まれません。核兵器から生まれるものは破壊された街と多量な放射能、人の死、醜い人間の優越感、どれをとっても人間に有益なものはありません。核にしがみつくと核保有国、アメリカにしがみつくと日本政府。自分の生まれ育った日本が、また戦争をする国へと変化しつつあることは、哀れで悲しく、このままだと到底展望も生まれません。しかし、私は諦めた訳ではありません。「継続は力なり」を信じます。今までの活動は絶対に無駄ではなく、それなりに確実な結果を出してきました。私たち世代が、この確実な行動をどこまで引き継いで行けるのか不安はありますが、その不安を打ち消すためにも2005年原水爆禁止国民平和大会行進の通し行進に参加したいと思います。 奈木野佳代

